

## 明石の旧中学校校舎で最後のイベントが開催される！

11 月 16 日(土)、明石の旧中学校の校舎にて最後の校舎見学会が開催され、500 名を超える卒業生が集まり、ともに校舎へ別れを告げました。

附属明石中学校は 1947 年 5 月に兵庫県師範学校女子部附属中学校として開校し、1950 年に神戸大学の附属となった際に共学となりました。旧中学校舎は、附属明石中学校が閉校となった 2011 年 3 月以降も中等教育学校の明石校舎として中等 1～5 回生は前期課程の学び舎となっていました。が、2015 年 3 月をもって中等教育学校が住吉に完全移行し、以後使用されていませんでした。

附属明石中学校の同窓会「ユウカリ会」では、これまでも旧中学校舎でイベントを企画されてきましたが、今回は校舎に立ち入れるのが最後とのことで、過去中学校に在籍されていた先生による「最後の授業」などが実施されました。想定以上の非常に多くの卒業生が集結し、心温まる非常に素敵なイベントになったとのことでした。



### 神戸大学附属明石中学校 校歌

作詞 富田 碎花  
作曲 石田 純一

#### 一. あさ明けてゆく海峡は

落差大きく波立てど  
けぶりてにおう潮霧の  
揺れひく丘にますかがみ  
かけてぞ仰ぐ おお母校  
神大附属明石中

#### 二. 香を吐くみどりすくすくと

あすへ大きく育つ木の  
高きを指すは知性の芽  
窓辺の葉ずれゆりかごの  
うたともきかん おお母校  
神大附属明石中

#### 三. きょういろ映える島山や

のぞみ大きく青雲に  
水照りてひびけはすみある  
歩みをはこぶわれらなり  
挙ぐべしその名 おお母校  
神大附属明石中

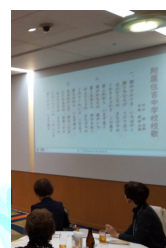


## 住吉東京同窓会が開催される

11月17日(日)、今年も附属住吉の東京同窓会が開催されました。コロナ禍以降で3回目となった今回は、東京の麹町にある東京グリーンパレスの宴会場「ふじ」にて、直近2回を上回る120名以上(うち中等卒業生が26名)の卒業生が一堂に会しました。

立食形式ということもあり、先輩方から中等卒業生に積極的にお声掛けいただいたため、学年・世代の枠を超えた交流がかなり深まりました。附属住吉小、中学校はなくなりましたが、同じ学び舎で学んだ中等卒業生を快く受け入れていただき、附属の繋がりで幅広い方々のお話を伺うことができたので、非常に貴重な時間となりました。

会の後半には中等教育学校、附属住吉小学校、附属住吉中学校の校歌を全員で斉唱し、大盛況のうちに会が終了しました。



### 神戸大学附属住吉小学校 校歌

作詞 竹友 藻風  
作曲 竹沢貞次郎

#### 一、

大空高く 晴れわたり  
みどりさやけき 六甲の山  
うばらの里の あと遠き

#### 二、

学びの園の 若草よ  
こころすなおに 健やかに  
そだちゆかなむ 大和撫子

#### 三、

津々浦々に 行き通う  
船路やすけき ちぬの海  
赤塚山に 咲きにおう  
おしえの道の 若草よ  
めぐみゆたけき 大御代に  
きおいたなむ 大和撫子

### 神戸大学附属住吉中学校 校歌

作詞 竹中 郁  
作曲 水野 康孝

#### 一、

朝のひかりを いちはやく  
胸うちひろげ うけて立つ  
山ふところの まなびやの

このきよらかさ この高さ  
若人 われら いまぞ生く

#### 二、

海のかなたの 雲のいろ  
肩くみ手とり 呼びまねく  
山ふところの まなびやの

このさいわいよ この広さ  
若人 われら いまぞ伸ぶ

#### 三、

木立のそよぎ 降るこだま  
人となる日の 知恵こやす  
山ふところの まなびやの

このいつくしみ このしじま  
若人 われら いまぞ醒む

## 木村 日向子 さん [中等 4 回生]

皆さん、こんにちは。4 回生の木村日向子です。私は 2018 年に附属を卒業し、1 年間の浪人生活を経て大阪大学法学部に入学、現在は紙おむつメーカーで購買部の一員として働いています。

購買部とは言っても、学校でパンやお菓子を買える場所、ではありません。「購買部」「調達部」「資材部」など様々な名称がありますが、つまりは「企業活動に必要なモノを外部から調達する部署」です。私の所属する購買部では、製品に使われる資材（不織布、パルプ、フィルム、パッケージ等）を調達しています。会社によっては、CM 枠やオフィスフロアの契約、はたまた事務作業に使うボールペン 1 本の購入まで同じ部署で担当しているところもありますよ。勿論会社のお金を使って買い物をするわけですから、ただ自分の好きな物を買うわけにはいきません。「会社の要求する品質、価格、納期を満たしたモノを、安定的に調達すること」が重要です。そのために、世界各国の現地法人社員やサプライヤー（資材メーカーや商社）と日々コミュニケーションをとり、資材の製造現場を視察し、新たな資材の開発を行い、世界中の展示会に参加して技術進歩について行く。そして、その集大成として価格交渉の場で次の半年あるいは 1 年間の資材調達価格を決めているのです。製造業の売上高のうち約 3 割が材料費ですから、責任は重大です。物価高騰が叫ばれて久しい昨今ですが、お客様に届く時の値段を少しでも抑えようと影で奮闘している我々の存在を、心のどこかで覚えていてくださると嬉しいです。

そんな仕事をしている私ですが、今回光栄にも『陽菊』での執筆依頼をいただき、附属生活について振り返ってみたところ、二つの思いが胸に浮かびました。一つ目は「多様な知識・経験を得ることができた」ということです。小学校から総合や英語の時間があり、中等では KP や小集団学習など、時代を先取りした教育で（当時は「私達はモルモットか?!」と思っていましたが）教科書に縛られない学識と物事の多角的な見方を身につけることができました。また、中等後期課程の修学旅行で訪れたイギリスでは現地の文化や人々に深く感銘を受け、「将来は世界で活躍する人間になる!」と決意したことを覚えています。

こういった知識・経験が、正に世界を相手に仕事をする現在に繋がっています。

そして、二つ目は「仲間に恵まれた」ということです。小学校入学～中等卒業の 12 年間、殆ど同じメンバーで過ごしたわけですが、各々個性的でありながら根っこの部分で強く繋がっている、そんな仲間だったなと思います。中等卒業後もたまに集まっては在校中と同じような冗談を言って笑い合える、良い関係です。そしてこれを執筆している 12 月 29 日にも 4 回生の同窓会が開催されますので、また同級生の温かさに包まれることができると思うとワクワクしています。

在校生の皆さんにおかれましても、附属での学び・出会いを礎として、自らの未来を力強く拓いていってください。将来どのような道に進むことがあっても、ここでの経験は生きてくるはずですよ。

### Hinako Kimura

前期課程では卓球部に所属、後期課程の時には高校生クイズで全国大会に出場した。学生時代は学習塾の集団授業で英語の講師を務めた。



ノースカロライナ州ニューバーンにある  
サプライヤーの工場にて



み苦しむこともあるかと思いますが、それを受け止めてくれる誰かが、附属にはいると思いますよ。

最後になりますが、皆様の益々のご活躍とご健勝をお祈りし、筆を置かせていただきます。最後までお読みいただきありがとうございます。ありがとうございました。

## 卒業生だより

### 波多 杏儒さん [中等7回生]

お久しぶりです。中等7回生の波多杏儒です。

新たな出発を迎える今、人生の棚卸しを兼ねて筆を取らせていただきました。

現在私は、法学部の最終学年で充実した日々を送っております。サークルやゼミに参加したり図書館に籠もったり野球観戦にハマってみたりと、相変わらず好奇心の赴くままに生きています。少なくとも私は、巷で噂の「砂漠」イメージとは異なり、出会いと学びの多い大学生活です。自己紹介の写真は、時々テレビで放送される大教室への階段で撮影したのですが、私の表情から前向きな雰囲気が伝わっていれば幸いです。

大学卒業を前に人生を振り返ってみると、思春期6年間の附属生活が自分の多くを作っているように思います。特に、我々の学年は変化と混乱が多い年度に中等を卒業しましたが、大学在学中における興味分野の広がりや進路選択を含め、変化というものを楽しめる人間になってきました。一例として私自身の興味分野の変化を挙げると、中等での課題研究の着手時は専ら環境にあったものの、現在は情報学や制度論にまで関心を広げています。緑豊かな自然と人工的な近未来は相対するようには思えるかもしれませんが、中等での経験が契機となり、学問分野を問わず物事を俯瞰的に考えるようになりました。いわゆる通信技術に限らず広く情報や環境自体が、性質上絶えず変化するものであり、今後もその渦の中で探究し続けていきたいと思っております。

例に漏れず、附属では、授業は自由な議論の場があり、課外活動は多分野かつ国内外にわたり、各人の知的好奇心を満たしうる環境が広がっています。私自身、中等卒業以降は稀となった数十人規模での双方向の対話を重ねたうえ、自然科学から社会科学、研究から海外派遣まで、一人の高校生とは想像し難いほど人生の糧となる経験を楽しみました。大学入学が決まった瞬間に道に迷う者が多い中で、外界に一步踏み出してみる原動力は、上記のような環境の中で培われたものであると思います。現在も、附属に通う妹から学校改革の様子や後輩の活躍を聞くと、改めて面白い学校だなと誇らしく思っております。

さらに、先日の東京同窓会では、昭和11年生まれの大先輩から中等新卒業生まで脈々と受け継がれる文化を身で感じました。中等同様の理念の下で育ってきたであろう方々のお話は馴染み深いものがあり、環境が人を作るという言説を思い出しました。また、閉会前に行った各校の校歌斉唱は久しぶりといえども身に沁みついており、参加者皆が方向を同じくして思い出に浸っている姿が印象的でした。同窓会にてお会いした齋木先生はじめ、先生方もお変わりなくお過ごしの様で何よりです。

例年暖冬とはいえ寒さも厳しくなってくる頃と存じますので、ご自愛ください。そして来年以降も、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



Anju Hata

在学中は科学研究部とESS部に所属したほか、学級委員長も担った。現在は東京大学法学部4年生、来春に就職予定。



先生だより

## 増見 敦先生

Atsushi Masumi

2012 年 4 月に着任、1、4 回生を担当し、中等の英語教育の礎を築かれた。今年度から 16 回生の学年主任。

卒業生の皆さん、こんにちは。お元気でお過ごしでしょうか。

本校に赴任してからの年月を振り返ると懐かしい思い出がたくさんあります。なかでも後期課程 1 回生の担任、4 回生の学年主任として過ごした日々は、私にとってかけがえのない宝物です。後期課程に入ったばかりの 4 月に行ったオリエンテーション合宿は今でも鮮明に覚えています。1 回生の時は嬉野台で各クラスの合唱練習をしたこと、そして 4 回生では淡路島で KP を柱にフィールドワークをやってみたことは特別な思い出です。そして、最も印象的だったのは英国研修（修学旅行）。200 名近い生徒を引率し、長時間かけて飛行機でロンドンへ向かいました。こんな大きな行事を経験できたのは、本当に貴重でした。事前に本校との交流校を作るためにイギリスのいくつかの学校を訪問したことも、大切な思い出となっています。ケンブリッジの CVC とは、今も定期的な交流が続いています。そして 6 年生の受験期には、今はなくなってしまった「第 2 職員室」で、放課後に学年の生徒達と相談したり、悩みを聞いたりしていた時間がとても懐かしいです。

赴任当初、1 回生の 4 年生を担当していましたが、一步外に出ると「神戸大学附属中等教育学校って聞いたことがない」という声をいろんな場所で耳にしました。多くの人に学校の名を少しでも知ってもらいたいという思いもあり、1 回生のみなさんには特に英語の面で負担をかけてしまったと思っています。でも、パワフルな 1 回生。期待以上の成果を出してくれました。例えば英語エッセイコンテストやディベート大会では県内上位、スピーチコンテストでは全国大会に出場。「すごい…」の一言でした。その後「神戸大学附属中等教育学校ってどんな学校？」と多くの先生方から声をかけられたのを覚えています。生徒自身が学校の名前を県内外に広めてくれました。現在でも、卒業生や現役生による課題研究（KP）の成果が全国的に評価され、本校の名がさらに広まっていることを誇りに思います。神大附属パワー、今でも力強いです。

現在、私は前期課程を担当しており、今年で 4 年目になります。卒業生に学校に足を運んでいただき、中学生に向けた講話をしていただいたり、オンラインで KP インタビューへの協力をしていただいたりと、たくさんの力を貸していただいています。立派に成長した教え子たちの姿を見るたびに、とても嬉しく、誇らしく感じます。自分の経験を後輩に伝えようとする皆さんの姿は、私にとっても大きな励みになっています。

顧問をさせていただいている吹奏楽部では、部活動の地域移行に伴い、今年から指導者をお迎えし、新たな活動体制が始まりました。土曜日や祝日には保護者の方々の見守りもあり、私は陰から部員をサポートしています。部員は自分たちの力で懸命に取り組み、アンサンブルコンテストで県大会出場を重ねるなど、着実に力をつけています。吹奏楽部の OB・OG の皆さん、今後も現役生への応援をお願いします！卒業生の皆さん、いろんな場所から、後輩たちに刺激を与え続けてください。皆さんのさらなる活躍を心からお祈りしています。



ALT の先生と 1 年生の授業で

## 部活動の今に迫る！

今号では吹奏楽部の活動の様子を紹介します。

### 吹奏楽部

こんにちは！吹奏楽部です。今年度、吹奏楽部は1～5年生までの全59人で活動しています。吹奏楽部は兔原祭や音楽祭、王子動物園での演奏や、コンクールやアンサンブルコンテストなどの、様々な活動を通して音楽と触れ合っています。

そんな吹奏楽部ですが、今年は大きく部活動の体制が変わりました。教員の働き方改革の一環で、休日に顧問の先生が部活の監督ができなくなったことが大きく影響しています。このままだと今まで通り部活ができない！となっていたのですが、指揮者に外部講師の先生を迎え、外部講師の方が来られない休日や、長期休みの期間は保護者の方に協力していただき、活動を継続することができました。初めてのことばかりで今もよく混乱しますが、来年、再来年と着実に運営を固めていって、新しい部活のあり方のモデルになればと思っています。

今後も吹奏楽部はさらなる活躍を目指して練習に励んでいきますので、温かいご支援をよろしくお願いします。



## ～同窓会からのお知らせ～

■ 本広報誌のバックナンバー：『陽菊-ひなぎく-』のバックナンバーを学校 HP に掲載していただいています。是非ご覧ください>> <https://www.edu.kobe-u.ac.jp/kuss-top/current/alumni/association/>

### 寄付のお願い

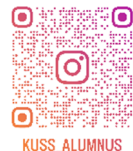
母校の教育活動の支援のため、寄付へのご協力よろしくお願いします。

附属学校部 HP : <http://www.schools.kobe-u.ac.jp/donations.html>



### SNS で情報発信中！

Instagram、Xで同窓会関係の情報を発信しています！フォローお願いします



KUSS\_ALUMNUS



@kuss\_alumnus

## 【編集後記】

関西以外で神戸出身だと自己紹介すると、「地震の時は大変でしたね」と言われることがしばしば。なお、私自身(というか1回生の過半数)は1996年生まれなので、震災を知らないのですが…(小黑が老け顔なのか、態度が大きいのか。。)年が明けると阪神淡路大震災から30年。今年はお正月から能登半島が地震に見舞われましたが、2025年は自然災害の少ない1年になりますように。良いお年を。

(次号は2025年3月31日発行予定です)